

障害者の親になっちゃったら?!

高知市の障害者福祉の現状と、 その改善を目指して

伊藤広明 内田貴子 鈴木圭介 田代未和
藤森尚之 松田加奈子 本山晋一郎 長尾佳樹

[目的]

2006年、障害者自立支援法が施行された事により、障害者をとりまく環境は変化したはずである。将来医療に携わる者として、障害と医療というものは少なからず関わりがあると考え、障害をもつ方（家庭）が直面する問題を知ることが目的とした。高知市では障害をもつ方（家庭）がサービスの不足などを感じずに、現在の制度がうまく機能しているのか調べ、問題点を考察する。

[方法]

事前に班員内で現在の障害者福祉に関する制度、サービスなどを学んだ上で仮説を立て、高知県内の現状を知るために高知県立療育福祉センター、高知県立高知若草養護学校、高知市元いきがい課の3カ所でインタビュー調査し検証した。高知県立高知若草養護学校では、職員と保護者を対象に自由記述式アンケートも行った。

[結果]

調査の結果は、障害者をとりまく現状はサービス提供の一元化、規制緩和などにより改善されつつも未だ問題があることを示した。行政が実施・促進しているサービスにおいても現状では不足しているとの意見があり、行政の思惑と実際が合致していない現状がうかがえた。障害者の自立のためには、障害者雇用が1つのポイントとなるように思われた。

[結論]

障害者自立支援法の目的である5本柱のうち、①障害者がもっと「働ける社会」②増大する福祉サービス等の費用を皆で負担し支え合う仕組みの強化、の2つの項目がうまく機能しておらず、改善すべき点がみられる。